



北海道教育研究所連盟第15次共同研究（平成26年度～28年度）概要

実践的指導力の向上に係る支援の在り方

ねらい 各教育研究所・研修センターが学校支援のために活用する指導資料や講師情報を共有するとともに、各教育研究所・研修センターが実施する教員研修の充実を図ることで、教員の実践的指導力の向上に資する。

研究内容1

「授業改善」及び授業改善を促す「校内研修」支援の在り方

(1) 授業改善のための支援

- ア 指導と評価の一体化の促進
 - ・目標の実現状況を判断する適切な評価規準を設定した授業実践の共有
- イ 思考力を育む授業づくりの促進
 - ・教科の目標の実現を図る言語活動の充実を設定した授業実践の共有
- ウ カリキュラム改善の視点を踏まえた授業づくりの促進
 - ・学校教育目標の具現化を踏まえた教科指導の推進、系統性や教科相互の関連を踏まえた実践等の共有

(2) 校内研修活性化に向けた支援

- ア 目的やねらいを踏まえた研究の促進
 - ・課題の洗い出しから研究のまとめまで、一連の研究の進め方についての理解とその推進等の在り方の共有
- イ 協働的な校内研修体制構築の促進
 - ・ワークショップ型研修など、全教職員で校内研修に取り組む体制づくりの在り方に係る実践事例等の収集、普及・還元

研究内容2

地域の実情やニーズ、教員のライフステージに応じた「教員研修」支援の在り方

○ 教員研修の充実に関する支援

- ア 専門性の向上に資する講師情報の共有促進
 - ・研修内容別の講師及び活用が可能な関係機関の一覧作成
- イ 教員のライフステージに応じた研修の促進
 - ・各加盟機関で実施している教員研修の内容及びプログラムの共有
- ウ 研修講座の実施、運営の充実促進
 - ・研修準備、開催要項・講師依頼状の作成、効果的な進行等の運営の在り方の共有

3年間の第15次共同研究推進計画

平成26年度 <1年次>	<ul style="list-style-type: none"> ○研究の推進に係る実践事例の収集 ○教員研修に係る実態調査 ○研究に係る所員の力量向上研修 ○夏季所員研修会における情報共有 	石狩大会 (兼 全教連研究協議会) 9月25日・26日
平成27年度 <2年次>	<ul style="list-style-type: none"> ○研究の推進に係る実践事例の収集 ○研究の普及・還元に係る資料の作成 ○研究に係る所員の力量向上研修 ○渡島大会における研究発表や協議 ○夏季所員研修会における情報共有 	渡島大会 9月3日・4日
平成28年度 <3年次>	<ul style="list-style-type: none"> ○実践事例集の発行及び研究の普及・還元に係る資料作成 ○研究に係る所員の力量向上研修 ○留萌大会における研究発表や協議 ○Webページによる資料提供や情報共有 	留萌大会 9月1日・2日

第15次共同研究の成果

研究内容1 「授業改善」及び授業改善を促す「校内研修」支援の在り方

(1) 授業改善のための支援

- ・学習評価の在り方について理解を深めるとともに、評価規準を位置付けた指導計画に基づいた複数の実践資料を収集し、学校への助言で活用できた。
- ・思考力・判断力・表現力等の育成に関わる各教育研究所・研修センターの取組について、具体的な事例に基づく複数の情報を共有、普及・還元することができた。
- ・カリキュラム・マネジメントの意義や必要性について研修を深めるとともに、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた指導計画の改善・充実の在り方について、成果の交流及び実践の共有を図ることができた。

(2) 校内研修活性化に向けた支援

- ・道内の教員のニーズや課題を踏まえた校内研修推進の在り方について、所員研修を通して理解を深めるとともに、各教育研究所・研修センターの事業に取り入れたり、域内の学校での効果的な取組を共有、普及・還元したりすることができた。
- ・協働的な校内研修の推進に関わる体制づくりや校内研修を推進するリーダーの役割について、所員研修を通して理解を深めるとともに、域内の学校での効果的な取組を共有、普及・還元することができた。

研究内容2 地域の実情やニーズ、教員のライフステージに応じた「教員研修」支援の在り方

- ・各教育研究所・研修センターが実施している教員研修の内容及び講師の情報について共有することができた。
- ・各教育研究所・研修センターが実施している教員研修のうち、経験年数やキャリアステージに応じた研修講座の内容構築の在り方について情報を共有することができた。
- ・各教育研究所・研修センターの所員の遠隔研修への参加、協力を得て、広域性に対応した研修講座の運営の在り方について理解を深めることができた。

平成28年度第71回北海道教育研究所連盟研究発表大会(留萌大会)

兼第58回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会



平成28年9月1日、2日に留萌市中央公民館を会場に、平成28年度第71回北海道教育研究所連盟研究発表大会(留萌大会)兼第58回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会を開催し、全道各教育研究所・研修センターから67名の所員・研究員等が参加しました。本大会の全体発表では、第15次共同研究(3年次目)の研究内容、研究発表では部会ごとのテーマに沿った発表及び協議を行いました。また、国立教育政策研究所教育課程研究センター総合研究官 銀島 文 氏による「人間形成における算数教育の役割と教員に求められる資質・能力」について、記念講演を行いました。

<全体発表>



第15次共同研究(3年次目)の研究内容の説明
共同研究推進委員長 中村 弘 樹

■本年度の研究内容

具体的な研究内容として、次のような活動を進めました。

- 北海道教育研究所連盟に加盟している各教育研究所・研修センターの所管している学校が行っている「ワークショップ型の校内研修」、「短時間で行えるミニ研修」の実践事例を収集するとともに、他の実践事例と合わせて、Webページ上に掲載しました。
- 「業務多忙で研修が受けられない」という課題に対して、「ミニ道研」コンテンツの1つである「算数科の授業づくり」を改善し、短い時間で研修ができるように新たなコンテンツを作成しました。
- 北海道の広域性に対応したワークショップ型遠隔研修では、各教育研究所・研修センターの所員が運営に参加するなどして、所員の運営方法の力量向上を図りました。

■ 記念講演

演題 「人間形成における算数教育の役割と教員に求められる資質・能力」

講師 国立教育政策研究所教育課程研究センター
総合研究官 銀島 文 氏



国立教育政策研究所教育課程研究センター
総合研究官 銀島 文 氏

全国学力・学習状況調査の小学校算数の正答率から明らかとなった課題や、児童が身に付けなければならない能力について算数教育が果たす役割と教員に求められる資質・能力との関係について講演されました。

〔概要〕

- 教員が、算数の授業において大切にしなければならないことは、児童が、問題解決に用いる考えに着目できるようにすることである。公式を使えるようになることや、正しい答えを求めることができるだけではなく、問題を解決するための過程が重要であるということ、児童に教えなければならない。
- ノートを活用し、黒板に書かれた説明や、他人の考えなどを書き写しながら理解したりすることも大切な学習方法である。ノートに写すことや板書をするのは、記録のためだけではなく、書き写しながら学習の過程を理解し、その考え方を身に付けるためであることを児童に理解させることが大切である。
- 小学校算数B問題から、「筋道を立てて考えることが苦手である」ということが明らかになっている。「筋道を立てて考える」とは、分かったことを基にして順に考えを進めていくことであるが、「諦めず分かることを見付けようとする」ことが身に付いていない。問題を読み進めていく中で、分かったことをメモしたり、書き込んだりするよう、教員が指導することが重要である。
- 変化する時代において、教育課程は多面的に考慮して構築する必要がある。資源がない、国土が狭い日本にとって、人材をどのように育てるかは大変重要である。特に、日本の得意分野である科学技術を高めるためには、もはや知識累積にとどまる科学教育では立ち行かない。新しい知の創造を可能にする科学教育を目指さなければならない。
- 日本の児童は、問題解決の方法を数学的に説明することが非常に苦手である。そのため、普通の授業の中で、解決の見通しや構想、筋道を話し合う場、問題解決の過程を振り返り、方法を整理する場を設けるなどの授業改善を図っていくことが大切である。

■研究発表（部会）

2日目は、「授業改善に向けた取組」「校内研修の活性化に関わる取組」「教員研修の充実に向けた取組」のテーマごとに研究発表を行いました。また、各教育研究所・研修センターの取組についての交流やテーマに基づいた協議を深めました。

第1部会「授業改善に向けた取組」

【研究発表1】 檜山教育研究所 福山 央 事務局長

「授業改善に向けた、檜山教育研究所の取組～授業力アップのための研修講座の実施を通して～」

- 子どもたちに確かな学力を身に付けさせるため、管内の教員が、先進的な実践校の「質の高い授業」に直接触れる機会を設け、指導力向上及び授業改善を図る研修を行っている。

【研究発表2】 江別市教育研究所 宮野 光彦 事務局長

「小学校外国語活動・英語活動の授業改善に向けた取組～小学校外国語活動・英語活動指導連絡協議会の活動を通して～」

- 今後の江別市の小学校外国語活動・英語活動の推進に関わる諸課題を総合的に検討するために、「小学校外国語活動・英語活動指導連絡協議会」を設置し、江別市教育研究所が運営を行うなど、授業改善の推進を図っている。

（協議）

- 授業改善のためには「よい授業に触れる」場の設定をすることが大切である。その実践を広く知ってもらう手だてを具体化する必要がある。
- 教員のニーズに合わせた情報を提供する。研修の中に対話的な活動を多く取り入れ、授業での効果的な活動を体験することが大切である。

（助言）助言者：稚内市教育研究所 菅野 洋子 副所長

- 各教育研究所・研修センターに今後も求められるのは、課題を設定する力や時代に適応するスピード、チーム力など、様々な教育課題に対して研究し続けることである。教員の企画力や熱意等を見極め、個々のニーズに合わせた支援をすることが大切である。そのために、各教育研究所・研修センターが連携する力を高め、お互いの研究や情報を交流することが重要となる。



第2部会 「校内研修の活性化に関わる取組」

【研究発表1】 胆振教育研究所 宮村 直人 事務局次長

「課題意識を高め、全員参画型の校内研修を目指して～教師の授業力を高め、児童生徒の学力向上につなげる研修の充実～」

- 全員参画型の校内研修を推進し、教員一人一人が課題意識をもち、授業力を高め、児童生徒の学力向上につなげる研修の充実を図っている。教員の年齢構成などに応じて、研修の視点や手法、形態などを工夫しながら研修を行っている。

【研究発表2】 音更町教育研究所 笠松 真一郎 副所長

「音更町教育研究所 指導力向上事業～豊かな心の育成～」

- 音更町教育の重点施策である「道徳の授業を要とした道徳教育の推進」及び、平成30年度より実施される「特別の教科 道徳」を充実させ、豊かな心の育成を図るための研修を行っている。（※台風の影響により欠席のため、資料提供のみ）

（協議）

- 校内研修の時間の確保やニーズに合わせるため、DVD、演習シートなどをセットにして提供したり、アンケートで求められる研究内容の状況把握をしたりするなど、短時間で行える校内研修に向けた支援が必要である。
- 各教育研究所・研修センターでの取組の普及のための方策として、資料や動画の配信だけでなく、専門性の高い人材を実際に派遣するなど、派遣のシステムを見直すことが重要である。

（助言）助言者：上川教育研修センター 奥山 ゆみ子 副所長

- 研修の活性化を図るためには、運営するチームの編成が大切である。研修をよりよくするために、そのメンバーが本音を語り合うだけでなく、終了後の成果や振り返りを行うことが重要である。
- 研修での課題等を各教育研究所・研修センターが共有し発信することは、研修を活性化するために極めて重要である。そのために、所員のコミュニケーションスキルを高めることが必要である。



第3部会 「教員研修の充実に向けた取組」

【研究発表1】 釧路教育研究所 中島 愛 研究所員

「授業研究を生かした教員研修の充実～すべての子どもが「わかる・できる」授業の研究を通して～」

- 授業研究を通して、管内の教員の資質向上を図っている。授業研究は3か年計画で研究を進め、日頃の授業改善や校内研究に活用できるよう、研究の成果を管内に発信している。

【研究発表2】 上川教育研修センター 増子 淳一 指導員

小田島 充彦 研究所員

「研修と研究の両輪で推進する管内教育～現場のニーズに対応した研修センターを目指して～」

- 管内23市町村の教員の資質向上のために、教員のライフステージに応じた研修講座の開講や、研究協力校と協働した授業改善のための理論と実践の検証を行い、その実践や成果を校内研修や校内研究の参考例として発信している。

（協議）

- 所員の中に各年代の教員を揃え、若いうちから研究会に参加し、他地域の先輩方も含めた授業づくり、プレゼン発表など様々なことを学び、発信できる力を身に付けていく必要がある。
- 各教育研究所・研修センターに関わっては、実際にすぐに研修で活用できるもの、例えば、研修講座で行ったことを映像にして見ることができるなど、必要な時に使える情報を発信することが大切である。

（助言）助言者：空知教育センター 四十九院 正満 所長

- 各教育研究所・研修センターの役割として、取組の情報交流や協議を通して、所員自身が力量を高め、学校への発信力を発揮することが求められている。そのためには、社会が求める最先端の教育やライフステージに応じた研修など、教員のニーズに対応することが必要である。各教育研究所・研修センターは、教員のために様々な支援ができる場であることが重要である。



所長研修会 平成28年4月22日(金) 会場：北海道立教育研究所

○講演 「これからの教員研修の在り方」北海道教育委員会委員 鶴羽佳子氏
○協議 「これからの教員研修の在り方について」「各加盟機関と道研との連携の在り方について」

【講演の概要】

- ・日本の子どもたちは積極的に発言することが苦手なように感じる。その背景には、間違った発言で友人に笑われたくないという意識が強かったり、常に正しい答えを探し、正しくない答えは発言してはいけないという考えがあったりするからである。幼少期から、自分の考えを明確にもって相手に伝えることの大切さを実感させるとともに、主体的に発言することができる環境づくりを行うことが重要である。
- ・子どもたちを、褒めて育てることは、とても重要なことではあるが、褒める言葉をもっていない教員が多い。例えば、「あ」明るい、「い」意思が強いなど五十音順に褒める言葉を考えるなどして、語彙力を増やすことが大切である。多くの褒め言葉を持ち、子ども一人一人をよく見て、そのよさに応じた言葉で褒める必要がある。そうすることで、子どもや保護者との信頼関係が築かれる。



北海道教育委員会委員
鶴羽佳子氏

【協議の概要】

- ・「仕組む」「仕込む」「仕掛ける」という意識で、各教員の将来性を見据え、多くの教員が研修講座に参加できるよう校長会との連携を図っている。
- ・管内では、教員の指導力向上が一番の課題である。研修に参加する機会がない中で、ミニ道研、講師派遣はとてありがたく、参加している教員はそれぞれ実りがあり、学校に還元しているという実態がある。

夏季所員研修会 平成28年7月26日(火)・27日(水) 会場：北海道立教育研究所

- 実践発表 「校内研究推進に係る支援の在り方について」北広島市立大曲小学校教諭 加藤優子
- 講義 「国及び本道の今日的な課題を踏まえた教育研究所・研修センターの在り方について」
- 説明・演習 「カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた授業改善について」
- 説明・演習 「授業改善に生かす適切な学習評価」
- 協議・演習 「ミニ道研コンテンツを活用した校内研修プランの作成」
- 協議 「各教育研究所・研修センターにおける取組や課題の交流及び課題解決方策についての検討」

参加者からは、「自校のカリキュラム・マネジメントモデルを作成することを通して、教育目標の実現のために学校全体で取り組むべきことを明らかにすることができた。」「管内研修センター等連携」研修講座(ミニ道研)コンテンツを活用した校内研修プランは、授業研究に役立つ資料だと感じた。このような資料がたくさんあるとよい。」「所員同士の交流により、人脈を広げることができた。更に親交を深めたい。」などの声が寄せられました。

夏季所員研修会は、全道の各教育研究所・研修センターの所員が一堂に会し、事業内容の改善やその課題解決を図るための具体的方策を交流し、所員としての力量を高める貴重な機会です。今後も所員の積極的な派遣をお願いします。



ミニ道研コンテンツを活用した校内研修プランの作成

平成29年度事業計画

- | | | | |
|---|--------------|--|-----------|
| 1 | 総会・所長研修会 | 平成29年4月21日(金) | 北海道立教育研究所 |
| 2 | 夏季所員研修会 | 平成29年7月27日(木)、28日(金) | 北海道立教育研究所 |
| 3 | 研究発表大会(日高大会) | 平成29年8月31日(木)、9月1日(金) | 浦河総合文化会館 |
| 4 | 共同研究推進委員会 | 平成29年5月10日(水)、6月、7月27日(木)、8月31日(木)、10月、12月、1月12日(金) ※下線は北海道立教育研究所で開催 | |
| 5 | 委員会 | 平成30年2月9日(金) | 北海道立教育研究所 |

発行 北海道教育研究所連盟

事務局：〒069-0834 江別市文京台東町42番地 北海道立教育研究所内
TEL 011-386-4513 / FAX 011-386-4988
URL <http://www.dokenren.hokkaido-c.ed.jp/>
E-mail dokenren@hokkaido-c.ed.jp